

前は、少年院について取り上げました。今回は、政府が推進している再犯防止対策について御紹介します。

■ 日本は世界一安全な国？

(表1: 諸外国における犯罪動向)

国名	日本		フランス		ドイツ		イギリス		アメリカ	
	発生 件数	発生 率	発生 件数	発生 率	発生 件数	発生 率	発生 件数	発生 率	発生 件数	発生 率
2016 (H28)										
殺人	362	0.3	874	1.4	963	1.2	789	1.2	17,413	5.4
強盗	2,332	1.8	104,439	161.5	43,009	52.3	61,440	92.7	332,800	103.0
窃盗	486,933	381.1	1,925,847	2,978.1	1,782,844	2,169.1	1,960,138	2,956.6	7,919,096	2,451.6

「発生率」: 人口10万人当たりの発生件数をいう。「イギリス」: イングランド、ウェールズ、北アイルランド及びスコットランドをいう。統計資料については、国際連合薬物・犯罪事務所 (UNODC) が実施した犯罪情勢等に関する調査 (UN-CTS) を使用する。

世界と比べた日本の犯罪数

表1をもとに、日本の犯罪発生率を諸外国と比較すると、殺人・強盗・窃盗においては、日本は世界に比べて安全な国と判断できるのではないのでしょうか。

しかしながら、平成24年7月に実施された内閣府の世論調査では、回答者の約4割が「現在の日本が治安がよく安全で安心して暮らせる国だと思わない」、回答者の約8割が「ここ10年間で日本の治安が悪くなったと思う」と回答しています。

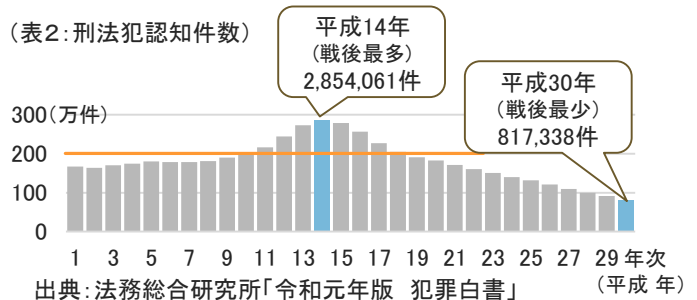
では、日本における犯罪数の推移はどうなっているのでしょうか。表2のとおり、刑法犯の認知件数は、平成8年以降増加の一途をたどっていましたが、政府が平成15年に**犯罪対策閣僚会議**を発足させ対策した結果、平成30年の認知件数はピーク時の約3分の1にまで減少しました。しかし、表3から見て取れるように、平成30年は一般刑法犯の検挙人数の約半数が**再犯者**となっており、また刑事施設に入所する受刑者の約6割が**再入者**であることから、**犯罪や非行の繰り返しをいかに食い止めるか(=再犯防止)**がこれからの課題となっています。

再犯防止に向けた政府の対策

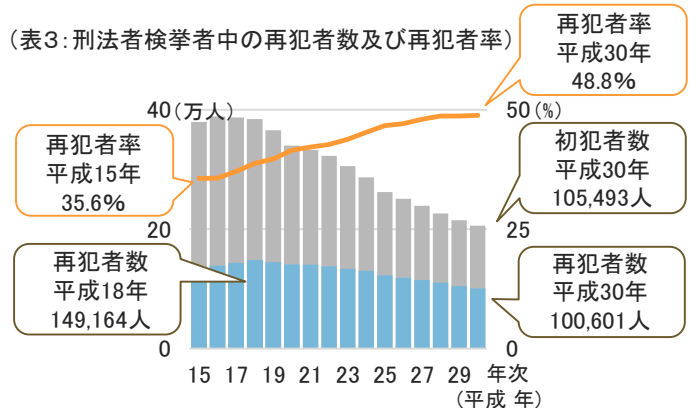
平成24年7月、**犯罪対策閣僚会議**において、再犯防止に関する政府全体の中長期的な取組を定めた「**再犯防止に向けた総合対策**」が決定されました。ここでは、政府の再犯防止対策としては初めて、「**出所後2年以内に再び刑務所に入所する者等の割合を10年間で20%以上減少させる**」という数値目標が掲げられています。

仕事に就いている人とそうでない人の再犯率を比較した場合、**無職者の再犯率が有職者の約3倍**に上っています。仕事に就くことができれば、**安定した収入**だけでなく、**仕事上での人間関係**が得られるため、**立ち直る大きな機会**となります。しかし、犯罪や非行をした人が社会で働くことは、本人の職業能力や前歴等の問題によって容易ではありません。そこで、法務省は、刑務所や少年院における、**建設業や介護福祉など、社会のニーズを捉えた職業訓練等の実施**や**協力雇用主に対する経済的支援やサポート体制の充実**等を進めています。協力雇用主とは、出所者等の自立及び社会復帰に協力するために雇用している事業主のことをいい、出所者の就業を実現する上では欠かせない存在です。犯罪が繰り返されない、「**世界一安全な国、日本**」を実現するためには、犯罪や非行をした者を社会から排除し、孤立させるのではなく、**社会の一員として再び受け入れることができる社会環境を構築**することが不可欠です。

(表2: 刑法犯認知件数)



(表3: 刑法者検挙者中の再犯者数及び再犯者率)



■ イタリアにおける先進的な取組 ～受刑者の社会復帰を目指す～

刑務所と社会の垣根を取り払う ～塀の中を外と同じ環境に～

イタリア北西部に位置するロンバルディア州のミラノ市郊外にある**ボラーテ刑務所**について取り上げます。**収容定員1,311人**のごく一般的な刑事施設は、2002年に所長に着任した**ルチア・カステラーノ**氏の改革によって、一躍有名になりました。同氏が取り組んだのは、従来の刑務所の在り方を抜本的に変えることです。具体的には、受刑者に**自律的な生活を認め、社会に開かれた施設**にすることを目指しました。

ボラーテ刑務所の奇跡

ボラーテ刑務所が掲げた基本原則は、①受刑者に**自らの判断で行動する裁量**を与えて、**自覚と責任**を持たせること、②外部通勤など、**受刑者の円滑な社会復帰につながる処遇**を最大限活用すること、③刑務所内外を問わず**人々の相互交流を盛んにすること**の3つです。

加えて、この刑務所の最大の特徴は、受刑者全体の**約10%も**の受刑者が**外部通勤制度**を利用して、**刑務所の外で就労している**点です。刑務所庁舎の横にある**インガレラ(InGalera)**というレストランを例に見てみましょう。このレストランを運営する**社会協働組合**(※)の理事長は、カステラーノ氏によって**ヘッドハンティング**されました。優秀な経営者を招き入れ、高品質な料理をサービスした結果、旅行サイト「トリップアドバイザー」において、**5つ星中4.5**(2020年3月現在)の評価を獲得しています。実際に働くのは、料理長として刑務所の外から雇われた**一流のシェフ**と、**調理師**や**ウェ이터**である7人の受刑者、**ケータリング**を担当する10人の受刑者です。

開放的な刑務所での生活は、受刑者にどのような影響を与えるでしょうか。同氏によると、**ボラーテ刑務所の再犯率(5年間)**は**約18%**であり、他の一般的な刑務所の再犯率の**60%**に比べ、非常に低くなっています。しかし、刑務所間で**受刑者の質が異なる**ことから、両者の単純比較はできません。そのため、さらに高度な分析をした結果、**同じ刑期を宣告された受刑者同士**で比べると、**ボラーテ刑務所の再犯率**は、一般的な刑務所の再犯率より**約9%低**くなりました。従来の刑務所とは異なるアプローチで再犯防止を実現した意義は大きいのではないのでしょうか。

参考資料

再犯率60%から18%へ ミラノ・ボラーテ刑務所の奇跡 浜井浩一(龍谷大学)
ボラーテ刑務所の奇跡 Lucia Castellano 翻訳:小谷真男(お茶の水女子大学)



～イタリア基本情報～

- 面積
30.1万km²
⇒日本の約5分の4
- 人口
(2018年1月推計値)
6,060万人
⇒日本の約半分
- 犯罪発生状況
(2016年
イタリア内務省統計)
犯罪認知件数
約250万件
(前年比7.99%減)
出典:外務省HP

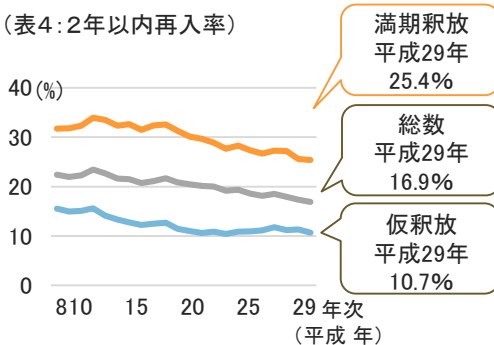
※社会協働組合…
社会的に不利益(困難)な
立場にいる人たちの就労
や教育を支援するための
公益法人

■ 日本の再犯防止対策のこれから ～再犯防止推進加速化プラン～

政府目標の達成はまもなく…！？

平成29年12月に閣議決定された「**再犯防止推進計画**」に基づき、対策を進めた結果、表4のとおり、「出所後2年以内に再び刑事施設に入所する者の割合(2年以内再入率)」が、直近の平成29年において初めて**17%を下回る**など、**政府目標**である**16%以下**に向けて、着実な効果を上げています。その一方で、刑事施設内で刑期を終えて社会に復帰する**満期釈放者**の**2年以内再入率**は、刑期終了前に社会に戻り、社会内で保護観察を受ける**仮釈放者**と比較すると、**2倍以上高**なっています。令和元年12月23日の犯罪対策閣僚会議において、再犯防止推進計画で定めた政府目標を確実に達成するために、「**再犯防止推進加速化プラン**」として、①**満期釈放者対策の充実強化**、②**地方公共団体との連携強化**、③**民間協力者の活動の促進**について、政府一丸となって取り組んでいくことが確認されました。

(表4:2年以内再入率)



出典:法務総合研究所「令和元年版 犯罪白書」

②地方公共団体との連携強化とは？

再犯・再非行を防ぐためには、**刑事司法関係機関**のみの取組だけでは十分でなく、それぞれの地域社会において、住民に身近なサービスを提供する**地方公共団体の皆様との連携**が不可欠です。

法務省は、①地方再犯防止推進計画等の策定に必要な**各種統計情報を整備・提供**や、②**再犯防止に取り組む上で参考となる情報**(地方公共団体や民間の好事例など)を集約して、**取組の横展開**を図る仕組みを整備します。さらに、地方公共団体が**効果的な再犯防止の実施体制を構築**できるような支援も進めていきます。

質問やご意見、取り上げてほしい事項などありましたら、当課までお気軽にご連絡ください。

福岡矯正管区 更生支援企画課 福岡市東区若宮5丁目3番53号
TEL : 092-661-1143 (直通) FAX : 092-663-1001
MAIL : kouseishien-fukuoka@cccs.moj.go.jp